

私学助成ニュース Vol.1

2022.6

立命館慶祥中学校・高等学校
私学助成運動協議会
(学校・教職員・保護者会)

今年度は、私学助成署名活動再開につなげていくことを念頭に、1家庭3枚の署名用紙を配布させていただきます。各ご家庭、無理のない範囲でのご協力をお願いいたします。また、今年度も署名活動とともに、私学助成の勉強会(対面とWEB併用を予定)や啓蒙活動をしていきます。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、街頭での署名活動は予定しておりません。

将来を担う子どもたちが、学費にとらわれず、安心してよりよい教育を受けられますよう、この運動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

私学助成について

国や都道府県は、経営基盤を安定させ、質の高い教育を継続的に実施していくために、私立学校の運営費に対して「私学助成」を創設し、補助金を交付しています。

「私学助成」の目的

- ①私学の教育条件の維持向上
- ②生徒等の修学上の経済的負担の軽減
- ③私立経営の健全性の向上

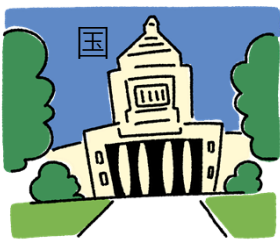
なぜ署名を集めるのか

日本は議会制民主主義の国なので、私たちの要求を訴えるためには、選挙、陳情、または署名運動などによって行政に働きかけるしかありません。

また、請願は憲法第16条に「請願権」として認められた権利でもあります。

授業料の値上げを抑えようとすれば、国や都道府県の公費助成に頼る以外ありません。

私たちの署名活動はこのように生かされています



【国会への請願】

都道府県への私学助成増額とすべての生徒が就学支援金を受け取れるように国会へ請願都道府県への支給額が増えれば各学校への支給額も増額

就学支援金の費用を都道府県へ交付



国からもらった就学支援金を各学校に支給

【北海道議会への請願】

公立・私立の支援金の格差縮小、私立学校への支援額の増額を北海道議会へ請願

就学支援金の公私格差、私立は公立の約3.5分の1しか支給されていない現状

集まった署名



生徒



学校



学校生徒に変わって就学支援金の費用を受け取る





慶祥の私学助成

立命館慶祥は、特定の政治団体と結びつくことなく、学校・保護者会・教職員組合が3者一丸となって活動を行っています。署名活動期間後に署名用紙の集計作業を行い、11月～12月の間に国会・道議会へ請願を行ってきました。

私立学校を守るために私たちができること、それは署名を集めることです。署名は一人では力を発揮しませんがたくさん集まれば、国や都道府県も動かすことができるのです。教育費負担の公私間格差をなくし、子どもたちにゆきとどいた教育を求める私学助成署名活動を通し、署名とともに私たちの思いを国や道へしっかり届けたいと思います。



補助金の額



私立高校の場合、生徒一人当たり約35万円が補助されています。

これは、就学支援金を除いてです。

本校の場合全収入の6割強を学費(就学支援金を含む)、2割強を補助金が占めています。

補助金の減額は、教育環境づくりに大きな影響を及ぼしかねません。補助金は署名活動によって支えられ、すこしずつですが生徒一人当たりの単価は毎年増額されています。

管理運営費補助金の生徒一人当たり単価の推移

年度	2019	2020	2021
高校	355,319円	358,517円	361,709円
中学	328,775円	333,310円	337,451円

助成金の現状



2020年度より、年収590万円未満の家庭では私立に通う高校生への就学支援金の上限が39万6000円に引き上げられました。

北海道では、道内の私立全日制高校に在学の場合、年収590万円未満の世帯に対して独自の「授業料軽減補助金」を上乗せしています。